

# 新型コロナウイルス感染症について(第六報)

## ～ 東京都港区の保育園における新型コロナウイルス感染症の実態に関する調査結果について ～



国立感染症研究所感染症疫学センター 菅原 民枝 大日 康史

東京都港区のみなと保健所から、保育園における新型コロナウイルス感染症の実態に関する調査結果がホームページ上で公表されました。

港区ホームページ「みなと保健所からのお知らせ(11月11日)『区内の保育園における新型コロナウイルスの事例報告』調査の結果、園内での感染リスクは極めて低いと判断」

[https://www.city.minato.tokyo.jp/houdou/kuse/koho/press/202011/20201111\\_press.html](https://www.city.minato.tokyo.jp/houdou/kuse/koho/press/202011/20201111_press.html)

みなと保健所の皆様、地域の医師会、医療機関の先生方。お忙しい中、こうした調査結果をまとめて公表していただき本当にありがとうございます。現在も流行は続いていますので、保健所の皆様、医療機関の先生方の対応はこれまで以上に多忙となっていると思われませんが、こうした報告をしていただけることで、全国の保育園、保育園関係者、そして子どもを預ける保護者が、心配で胸がおしつぶされそうになりながらも、1つでも安心できる情報があることで、これからも保育園内においても、家庭内においてもしっかり感染対策をしていこうという希望の気持ちになることができます。

### (1) 保育園内の新型コロナウイルス感染リスクは極めて低い

この調査の対象は、2020年7月から10月に港

区内の保育園で新型コロナウイルス感染症の発生があった保育園10施設です。保健所が濃厚接触者と判定したのは、10施設で職員18人、園児61人でした。保健所は積極的疫学調査によって濃厚接触者を判定しています。積極的疫学調査による濃厚接触者とは、新型コロナウイルス感染症陽性者(以下陽性者)と手で触れることの出来る距離(目安として1メートル)で、必要な感染予防策なしで、「患者(確定例)」と15分以上の接触があった者(周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する)です。具体的には、陽性者が職員の場合は、担当する園児や園内で、近距離でマスクを外して会話した職員、会食した職員、園児が陽性者の場合は、同じクラスの園児やおんぶなど近距離で15分以上接触した職員等です。

PCR検査の結果、感染が確認されたのは職員の1名のみでした。その他の職員およびすべての園児では感染が認められませんでした。

### (2) 調査結果から考えられること

この結果から、どういったことが考えられるでしょうか。

今回の調査の結論は、保育園で十分な感染予防策を行っていれば、園児はマスクを着用していないにも関わらず、施設内の感染リスクは極めて低く、職員から園児、園児から職員、園児から園児への感染の可能性は低いです。

園児が初発例である場合、職員や園児への感染は全く認められなかったそうです。特に1例では発熱の2日前に登園しており感染性があるとされている時期でしたが、二次感染は認められなかったそうです。

アメリカの研究では、発症した小児のウイルス量が発症した成人より多いという報告もありますが、今回の結果からは、すくなくとも園児の無症候あるいは発症前でのウイルス量は感染リスクが高まるほどは多くない可能性があることも示唆しています。アメリカでの知見は日本の小児にはそのまま適用できない可能性とも考えられます。

一方、職員の場合では、在園中の休憩時間または昼食時のマスクをはずした状態での会話による職員間の感染が示唆されています。しかしながらこうした職員間の感染は10施設中1例でしたのでおむね保育施設での感染対策は、施設内での流行を防ぐために十分であったようです。

### (3) 保護者の不安感を和らげていくために

みなと保健所が、調査結果を港区内のみならず全国に向けて公表されたのは、新型コロナウイルス感染症の日本における小児の発症の頻度は成人に比べ極めて低いにもかかわらず、保育園での集団感染の発生と休園の報道がなされ、全国の保護者が不安になっていると考えられたからです。保護者にも保育園での感染の実態について知って頂くことを目的とされています。

保護者の不安は、どのようなときにもあります。特に、第一子の保護者の場合には、より不安が大きくなりやすいですし、子育ての不安もある中で、保育園に通園させることが不安になっている場合もあります。様々な思いの保護者がたくさんいますが、不安が大きければ、小さなことでも大きな出来事に発展してしまうこともあります。そうならないためにも、こうした保健所の報告を

保護者に伝え、そして、自らの保育園での対策についても伝えていきましょう。

今後、保育園で患者発生があるかもしれませんが、その時には保護者との連携や協力は欠かせません。二次感染対策をしっかりと行って感染拡大防止対策を行っていきましょう。

### (4) 地域の機関との連携

これからも、保育園の関係者の皆様方のご心配は続くと思います。多くの方が、いつまで続くのと思っていられしやるにちががありません。今の流行は(2020年11月18日現在)、現在の流行が収まったとしても、また再度同じような、さらに大きな流行が起こるかもしれません。保育園では、基本的な日常の衛生管理をしっかりと行っていれば、大丈夫です。有事に備えましょう。もしも、日常の衛生管理ができていないのであれば、直ちに見直しが必要です。できているのであれば、自信をもってください。

今回の調査は、港区小児科医会・港区医師会、愛育病院、慈恵医大との協力でまとめられました。こうした地域内での協力機関における取組としても、評価されます。皆さんの地域でも、医師会、医療機関、保健所、保育主管課は、いつでも皆さんを見守っていますし、いつでも支援する体制で、発生時には、連携をとって対応していきます。ウイルスは目には見えないので、心配にもなりますし、心細くなることもあるかもしれませんが、見守っていただいていますので、大丈夫です。気になったことがあれば、最寄りの保健所や施設主管課に相談をして、アドバイスを受けましょう。一人で苦しい気持ちを抱え込み過ぎないで、対応していきましょう。